

予算額

3,126,200 円

地域課題解決に向けた取組

	取組の名称	夢の懸け橋プロジェクト				
	趣旨・目的	夢・あこがれを抱く子ども達の育成 トップアスリートと交流する機会を通じて、子どもたちに夢の大切さを伝える。 トップアスリートの地域とのつながりをつくることを支援する。 トップアスリート・チームと地域の小学校・子どもたちとのつなぎ役になる。				
	内容	主な内容は、トップアスリート・チームが小学校を訪れ、野球、フットサル、トライアスロンの指導を行った。 スポーツを通じていっしょに体を動かすことで、触れ合うことや凄さを体感することと、アスリート自身の生き立ちや夢の大切さについて話を聞く時間を設け、実技と講義で子どもたちに伝えた。				
1	対象者	小学生	参加人数	207名	実施回数	3回
	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 参加していただいたアスリートへ、趣旨やテーマについて、念入りに事前説明を行なった。 実技には、ゲーム性を取り入れるよう依頼し、運動が苦手な子どもでも楽しめる内容を設定した。 トップアスリートの方で対応ができない場合は、クラブのスタッフがプログラムを企画し、進行を支援した。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> 非日常的な機会となり、子ども達の普段にはない発言等、先生方が気付く点がたくさんあった。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> 実施校の調整。全学校ではできないので、どう選択していくか。今回は小学校体育活動コーディネーター派遣した学校とまず調整を行った。 保護者や地域への呼びかけを今後行い、参加していただく事を検討する。 				

小学校体育活動支援

派遣先学校総数	4 校
コーディネーター総数	3 名

◆効果を高めるための工夫や取組など

・ (事前) 学校側の負担を減らすため、書類の数を最小限にし、直接の打合せによって、授業計画やTTの役割分担などを話し合った。趣旨の説明や顔合せが正確に行え、良かったと思う。
・ コーディネーターに対して、体育授業における基礎知識やTTの役割など、事前に研修を行ない、適切なカタチで授業にコーディネーターの育成を行なった。
・ 同じ学校で、希望のクラスと授業時間を調整し、同じ曜日の3時間を一気に見て3クラスに入るなど、多くのクラスに入れるよう工夫を行なった。
・ (実施中) できる限り授業前、授業後で、担任の先生と話をする時間をつくった。
・ コーディネーターと事務局側が話す機会を持ち、改善点や問題点などその都度確認を行なった。
・ (事後) 担任の先生、校長先生、コーディネーターからそれぞれ意見を伺った。

◆成果と課題

〔成果〕

・ 見本を見せられない先生の支援になった。
・ できる子とできない子を分担してみることができ、関わる時間が増え、技能も向上した。
・ 体育の授業が楽しくなったという子が増えた。
・ 先生方の刺激になり、器械運動について先生を対象とした研修会を実施した。
・ コーディネーター(指導者)も学校体育の現状を体感することができ、新しい指導観を得た。
・ クラブと学校が関わる機会となり、新しい繋がりができ、別の事業でも連携を行った。

〔課題〕

・ 授業があるため、授業前後の打合せが十分に取れない。
・ 実施日時の調整。コーディネーターが7人いたが、全員が実施することができなかった。
・ 実施クラスにおける担任の主体性がなければ、ただ任されるという可能性がある。
・ TTの役割分担。コーディネーターがどこまでやっていいのかわかりながらやっていた。

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

・ 小学校との信頼関係を築くことができた。
・ クラブの活動範囲が広がった。
・ クラブのことを地域住民に知っていただく機会になった。

〔課題〕

・ 市内小学校との調整
・ コーディネーターの確保と育成
・ 委託終了後に、本事業をどう継続していくか。